座談会

若者は語る

―明日を担う後継者たち―

高度経済成長時代は終わり高福祉時代へ移行する中で、インフレの高進、公害問題の発生、自然環境の破壊、さらに経済成長率ゼロなど厳しい時代を迎えています。

さらに九州縦貫自動車道の本格的な開通、九州新幹線の本決り、大企業や大型店の進出など熊本にも新しい波が押し寄せ町も村も急速なテンポで変貌してきました。

このような激動する時代に「豊かな住みよい明るい郷土」をどうつくっていくか、それぞれの立場立場で考え、そして実行していかなければならないでしょう。

特に、あすの熊本を担っていく若い人たちが、この苦難の時代をどう受けとめ、乗りこえようとしているのか、あすの熊本への期待、夢などを熊本大学の有田教授の司会で語ってもらいました。

今日のご出席の皆さんは、それぞれの部門の第一線で活躍されている後継者たちです。

―出席者―

農業・岡田　康（25歳）青年農業者クラブ連絡協会長
農業・坂本　敏恵（22歳）女子部長〃
林業・城　文博（27歳）芦北林業研究会員
工業・住尾　栄一（24歳）熊本市青年会議所会員
商業・真木　清司（27歳）八代市〃
水産業・小川　明秀（24歳）五和町漁業組合青年部長
司会・有田　一郎　熊本大学教授

有田　ご承知のように最近の社会情勢は大変な変化の中にあります。過疎、過密、公害、インフレなどいろんな問題をはらみながら、なおどうなるのか余断を許さない情勢です。

当然のこととして、現代市民社会に対する反省も起きてきています。ここ数年自然の保護とか、郷土を見直そうとか、人と人との連体、融和とかいう気運も高まりを見せております。

現在熊本県は、㈠豊かな社会への基盤づくり㈡快適で安全な環境の造成㈢社会福祉の充実と健康の増進㈣生涯教育の推進と芸術文化の振興㈤産業の高度化と働く環境の改善という五本の柱を設け、従来の成長経済を目指す県政から、県民生活と地域開発との調和を目指した県政に大きく旋回しております。

現在、熊本は既に高速自動車道も一部開通し、新幹線も本決まり、大型企業や大規模店舗も進出し、熊本市を中心に都市化の傾向があります。

こういう情勢下若い皆さんが現在をどう認識し、未来の熊本はどうあるべきとお考えなのか、あるいはそれぞれの立場からの抱負、県の施策への要望なども合わせて大いに語って下さい。

まずは都市化あるいは工業化の問題についての皆さんの考えを聞かせて下さい。

都市化と公害

自然の保護と開発の調和を

住尾　都市化の過程では必ず公害問題が出てきますね。

これは私の会社にも関係のあることですが、法律では色々規制されてはいますけれども、それ以上に住民の方からの反発が起こってくると思います。工場誘致など都市化の方向を目指す時大事なことは、日頃から地域住民と友好的なコミニケーションを図っておくことだと思います。

真木　今までの考え方からすると、まず人間が集まらなくてはいけない、集めるために工場も誘致するし、道路も整備するということで開発が重点施策だった訳ですね。

しかし公害問題が出てくると、そうもいかない、自然の保護と開発の調和という考え方が要請されてきていますね。

小川　今までのやりっぱなしの都市化に対して緑化なども考え合わせた都市化が最近言われる傾向になってきていますね。熊本市などでは緑化運動など非常に盛んだと聞いています。

水産業という立場から言えば、都市化に伴う石油基地の進出などには危機感が先に立ちますね。

岡田　農村地帯に於ける都市化の進行は、地価の高騰、農業意欲の減退、兼業農家の促進という結果を生み、本来の狙いとするところの組織的大農業ということと矛盾してくるんです。

つまり都市化によって農村が疲弊し、農村本来の姿が壊れてしまうと思います。

坂本　私の住んでいる所は菊池郡の泗水町です。隣りは大津町で今盛んに本田技研の工場造成が行われています。近い将来私達の町にも関連下請工場もできるでしょうし、従業員の宿舎も建つということで、工場進出の経済効果が期待されてはいますが、心配なのはやはり公場排水などの公害問題ですね。

城　従来の成長政策は我々にとってまるでいいことはなかったですよ、人手は抜かれるは、賃金は高騰するはで…。都市化で農村部の生産力が低下しているという現象ですね。

一方で、自然の保護をうたい上げていますがそこに生活する我々にとってそれはきれいごとでしかありません。今少し我々が意欲を持って仕事ができるような方向づけをしてもらわないことには林業を志す者はいなくなり自然は荒廃しますよ。

▲新興住宅地

都市化と人間

欲しい連帯感融和

有田　全県下で都市化の傾向が進んでいますが、こういう中で「郷土の緑化」ということが空念仏に終らないようにしたいものですね。それに公害問題なども日常生活の中で阻止するようなしくみを考えたいものです。

それから、都市化で開発が進む中で、住民お互い同志の連帯感、融和というものはどうなってゆくのか、壊わされるのか、ならばこれにどう対処したらいいのかということですが、真木さんいかがで